

旅立ちの時！

The departure time has come !

3月24日（月）、大学院学位記授与式と都市工学専攻学位記伝達式が行われました。都市デザイン研究室でそれぞれ修士課程、博士課程を修了した6名から、研究室への置き手紙が届いています。

—研究室への置き手紙—

—Message for the Lab. Members—

博士 王 新衡

学部時代より、私はキャンパス周辺の近代工場への興味を持ち、工場の再利用と生産ラインの維持などの議論について関心をもっており、博士論文は近代化産業遺産を主題として研究し、約20年越しの人生の延長線上にあると言えます。先生方には過去5年間に亘りご指導を頂き、大変勉強になりました。また、研究室の皆様にはお世話になり、お互い励ましあいながら、

毎日の作業・調査・研究を積極的に行いました。研究室在籍期間の中で、都市・文化財研究を通して、充実した毎日を過ごすことができました。大変感謝致します。その恩を返すため、日台の架け橋になれるよう頑張ります。



修士 柏原 葉那

たくさんの不安を抱えて研究室に足を踏み入れてから2年。新しい環境に戸惑いながらも、研究室の皆さんに支えられて目の前のことにひたすら取り組むうちに、気がつけば修了を迎えることとなりました。

2年はとても短くてもう少しじっくりと向き合いたいこともあります。そう感じるようになったのも、その2年間に魅力的な方々や幾度も

通いたいと思えるまちとの出会いが小さかった私の世界をふわりと広げてくれたからです。今も抱える不安に立ちすくみそうにもなりますが、ここでの経験が私を後押ししてくれることと思います。ありがとうございました。



修士 越村 高至

私は2年前研究室に入ることが決まり自己紹介した時に「都市デザイン研究室に入って良かったと言えるような2年間にしたい」と言いました。最後まで自分の力不足を痛感する日々で、自分には向いてないのではと悩んだことすらありましたが、「都市デザイン研究室に入って良かった」というのはそれでも変わらないと思っています。

2年間、先生方や研究室の皆様には様々な場面で支えて頂きました。その支えのもと、PJや研究などの場で、まちや都市への熱い思いを持った方々に接することができました。本当にありがとうございました。



修士 児玉 千絵

置き手紙…？と思い、昨年のマガジン191号を読み直しました。純子先輩が引用した「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角人の世は住みにくい。」の漱石の言葉を拝読し、「うわー今の自分には出てこない！」と舌を巻きつつ、御礼の言葉満載の下書原稿を消しました。

私は4月から博士課程の

学生として引き続きお世話になります。修士課程で「こうだったらよかったのに」と思った研究生生活のあれこれ…先生方や先輩後輩の皆様とともに上手な智への働き方を追求していければと思っています。



修士 萩原 拓也

振り返ると、大学院生活の間に（実空間においても比喩的にも）普段の自分が選ばないような角を曲がり、沢山の知らない道を歩いたような気がします。その中で、新たな発見や気づきを産むための身軽さと、相反するようですが対象に向き合い続ける誠実さを学びました。

最後に先生方をはじめ、研究室の皆様から都市デザイン

研究室にいた3年間に頂いた理解と寛容、期待に感謝いたします。これからもまちや都市計画に関わる機会を頂いているので、まずは1つつ向き合うことで、これらの思いに返していきたいと思えます。



修士 福士 薫

あっという間の2年間で、楽しい事はもちろん、苦手な事も色々やりましたが、今思えば泣き事や文句を言いながらも、好きなことを好きなようにやらせていただいた、幸せな2年間でした。修論では頭の中にあるものをうまく形にできず、ぐるぐると悩む日々が続きましたが、学部時代から漠然と持っていた理想や問題意識と、大学院

生活で生まれた具体的な関心を自分なりに結びつけることができたのは本当に貴重な経験だったと思います。根気強くご指導くださった先生方、温かく接して下さった研究室の皆様、本当にお世話になりました。



追い出しコンパ開催！ Farewell Party was Held!

博士・修士・まち大修士を修了した
8名の旅立ちを祝う追い出しコンパ
が行われました。



text_takanashi

イドショー後半では、研究室内外の40名近い方からの一言メッセージを上映しました。会の最後には、各卒業生、先生方からスピーチをいただきました。スピーチの中で、卒業する皆様の思いを聞くことができましたが、いかに2年間が一瞬にして過ぎ去ったのかを繰り返し強調されていたように感じました。先生方のお言葉では涙ぐまれている方も見受けられました。

その後行われた2次会には横浜国立大学の野原先生や研究室のOBも駆けつけてくださり、話の尽きない楽しい会となりました。卒業された皆様の更なるご活躍をお祈りしております。



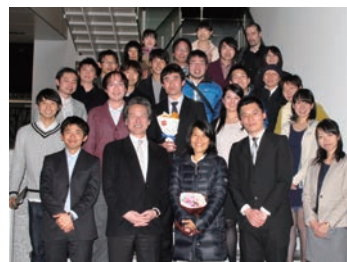
▲学位記を手に先生方と記念撮影！

3月24日(月)に、この3月で研究室を卒業されるまち大修士2名、博士1名、修士5名の方々の追い出しコンパを行いました。

築地のレストランにておいしい料理を囲み、別れを惜しみながらしばらく歓談した後に、スライドショーの上映を行いました。研究室で過ごした2年間の写真を目にし、会場からは「これは研究室旅行の時だ!」「これ頑張りましたよね」などと声があがり、記憶を共有しながら思い出を見返すことができました。またスラ



▲満面の笑みでの卒業



▲卒業おめでとございます！



大槌PJ 紀伊半島津波防災調査

Survey about Tsunami Disaster Prevention in Kii Peninsula

3月17日(月)～19日(水)、大槌PJメンバーで南海トラフ地震に備える三重・和歌山の各自治体や自主防災会による災害対策の取り組み視察する調査を行いました。

text_hagiwara

大槌PJでは、赤浜地区を中心に、津波避難体制の強化に向けた取り組みを行っています。そこで今回は、来年度以降の活動に示唆を得るため、三陸地域と同様に、南海・東南海地震による津波被害が懸念される三重、和歌山両県で行われている津波避難に関する取り組みの視察を行いました。

三陸同様、いくつもの入り江が発達している紀伊半島の浦々を巡りながら、避難タワーや避難道の整備状況を調査しました。また、三重県志摩市、和歌山県串本町では自治体の防災担当の方への聞き取りを行い、三重県大紀町では三重大学の中世古先生から、沿岸集落における取り組みの紹介を受け、自治体の津波防災に関する考え方などについての貴重な情報を得ることが出来ました。

訪れた各集落は、高齢化の進む似たような漁村集落が多かったですが、自治体と自主防災会との関係や地形的な特徴の僅かな違いによって、ハード整備の考え方や住民の取り組みの姿勢に大きな違いが見られました。大槌町においても、住民のみなさんと我々

の手によってどこまでの体制づくりができるか、自治体とも認識を共有しながら取り組むことが重要であると感じました。



▲大紀町錦地区の避難タワーを見学



▲尾鷲市にて避難道路をひたすら登る

都市デザイン研究室からのお知らせ

◆ 研究室 HP がリニューアルされました！ ◆

この度、都市デザイン研究室のHPがリニューアルされました(<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/>)。新たに開設したプロジェクトブログを利用して随時PJの活動報告を行うなど、より豊富な情報をお伝えしますので、ぜひアクセスしてください！

◆ 研究室マガジンが月1回の発行に変わります ◆

HPのリニューアルに合わせ、4月より都市デザイン研マガジンの発行を月2回から月1回に変更します。HPと差別化し、PJ報告などがメインだった紙面を研究室メンバーの関心などを深く掘り下げる企画を中心にしたものへと進化させていく予定です！今後とも研究室マガジンをよろしくお祈りします。

Information

3・4月の予定

3月28日～29日	三国PJ現地打ち合わせ
4月11日	入学式
4月14日	2013年度PJ報告会 16時～
4月24日	2014年度第1回研究会会議、新入生歓迎会

✦ 編集後記

萩原 拓也

愛知の片田舎で生を受けてから四半世紀が経ち、学生生活が今まさに終わろうとしています。聞くところによれば、尾張の信長は25歳にして桶狭間で今川義元を破り、鳥山明氏は24歳でDr.スランプの連載を開始しています。一方、三河の家康が征夷大將軍となったのは61歳のことです。これからはじまる新生活、故郷の偉人に習って、速い時間も遅い時間も上手く操れるようになっていきたいものです。さて皆様、本年度も都市デザイン研マガジンをご愛読いただきましてありがとうございました。今後とも何卒、都市デザイン研マガジンをご購読に。